

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893200028		
法人名	医療法人 晴風園		
事業所名	グループホーム せいふう北田原		
所在地	兵庫県川辺郡猪名川町北田原字内田230番地		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topigyosyo_index=true">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topigyosyo_index=true</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和3年3月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

猪名川町の南部に位置し、自然豊かな緑あふれる環境にあります。  
 病院や療養施設と違い、認知症によって自立した生活が困難になった方でも、今までの生活スタイルに近い形でスタッフとともに食事の支度や軽作業・散歩や買い物を行い、少人数で共同生活をしながら生活されています。  
 認知症の進行を穏やかにし、和やかな生活を送って頂く場所です。医療法人が母体であり、今井病院の医師や訪問看護ステーションの看護師との連携も密に行っています。昨年5月からは看護師も配置する事でより医療体制を充実させるようにしました。理学療法士が個別に立てた計画をもとに、お一人おひとりに合った生活リハビリを毎日実施しています。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

兵庫県内でも長寿を誇る猪名川町にある、唯一の認知症対応型共同生活施設である。事業所玄関からは、猪名川に沿って植えられた桜を望むことが出来、広がる畑や小高い山からも季節がたっぷりと感じ取れる恵まれた場所に建つ。利用者が1日最低1回はお腹の底から声を出して笑えるように、職員が工夫して、理念に沿った「笑顔と心のある介護」を実践している。開設して2年、新しい建物内を職員と利用者で掃除機をかけ、常に清潔を保っている。中庭の菜園作りに熱心な利用者もいる。前例のないコロナ禍という災厄のなか、新しく共用デイを始めることで地域に貢献しようという姿勢が、これからの大きな変化であり、法人のバックアップとともに地域になくてはならない貴重な福祉資源に成長していると言える。今後も、その理念を忘れない職員たちの笑顔にエールを送りたい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の2/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「人として尊重し、その人の思いを受け止め、その人の立場に立って、笑顔と心のある介護をします」を事業所内に掲示し、毎朝全職員で唱和も行う事で、常に意識するように心掛けています。	前回の第三者評価を機に、事業所理念の振り返りを行い、毎朝全職員で唱和を開始した。理念を見直すという意見もあったが、職員全員でもっと深く支援に反映していきたいとの声もあり、見直しは保留し、「笑顔と心のある介護」を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度に入ってから新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より全てのボランティア様の受け入れを中止させて頂いており、事業所の出入りも交流もほとんどありませんでした。	事業所として自治会に加入しており、地域住民から畑の指導を受けていたが、コロナ禍により交流が途絶えている。新年度から共用デイ事業を始めるにあたり、自治会長宅へあいさつに出向いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた、開かれた活動は依然できていない状況です。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、地域の方との交流もほとんどありませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、書面での報告に代えさせて頂いておりました。内容に対してのご意見等は数名からは頂く事ができていました。	運営推進会議は書面開催となり、全家族と行政、自治会長、第三者委員、ボランティア等の通常メンバーに送付している。家族からは面会が早く始まってほしいとの要望が多く寄せられる。	書面開催であることで、家族や推進会議メンバーから、返答が寄せられやすいような問いかけ等を工夫されてはいかかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症に係る部分での運営方法や介護保険上の取り扱い等について、都度行政担当者に相談させて頂き助言頂く等、協力関係は築けていたと思います。	4月より共用デイを開始するので、県の窓口や町の生活保険課とは協力関係を築いている。共用デイは要支援1から利用できるため、地域貢献の一つとして大きな意味があると管理者は捉えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全確保の観点より、玄関は電子ロックにて施錠させて頂いています。入居者様の想いに寄り添い、外出したい方には職員が付き添って散歩させて頂く等の対応を行っています。 身体拘束については、基本的に行わない方針を職員間で共有しており、今年度は身体拘束の実施はありませんでした。	Y字ベルト等拘束に当たる行為は、身体拘束適正化委員会で検討し評価することで、廃止することが出来た。このことで拘束を廃止していくという職員の意識が向上して理解につながった。センサーマットに対しても、同様の検討を実施して最小限度の使用としている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に外部研修や事業所内の勉強会に参加する事で、虐待について考える機会を持つようになっています。 不適切なケア、接遇等についても職員間で話し合う機会を持っています。	法人が、接遇の専門職を講師とする研修を計画している。コロナ禍のもと職員のストレスの蓄積が憂慮されるが、できるだけ管理者が話を聴くことで、職員間の風通しをよくして、働きやすい職場をめざしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修への参加や、勉強会の開催を行う事ができませんでした。	成年後見制度については活用している利用者がいるため、職員は理解している。契約前に地域包括から制度についての説明を受けており、多くの家族は知識を持っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書、個人情報同意書、重度化・終末期ケア対応指針等を使用し、御家族様に分かりやすい説明を心掛けています。 不明な点についても御理解、御納得頂けるように伝え方を工夫するように心掛けています。	契約時には利用者と家族の理解を図りながら、丁寧に説明している。家族からは、加算等に関する質問が多くあがる。看護師が常勤配置になったため、医療加算が増え、文書や電話、面会にて伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は面会を制限させて頂いていた関係で、直接御意見や御要望等をお伺いする機会は前年度よりは軽減しましたが、担当者会議等でお伺いするようには心掛けていました。	家族から面会や外出、旅行の希望が寄せられたが、法人の方針で感染防止の観点から諦めてもらった。利用者は窓から見える畑が気に入り、散歩や外気浴をするついでに職員と出かけ、畑の世話をしたりしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニット会議での職員からの意見や要望、提案等をリーダー間で共有し、必要であれば管理者会議等で運営に反映できるよう働きかけています。	職員からは、休憩室や物置の設置希望があり、法人と共に検討している。事業所前の花壇は法人の協力のもと、利用者と職員が力を合わせて整備した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間の事故目標を設定し、中間、期末と面談の機会を設ける事で、各職員の想いややりがい、悩み等を話せる機会を確保しています。 福利厚生では、親睦会等は中止になりましたが、慰労品や特別休暇等で職員に還元しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について、リモートで参加できるものには積極的に参加するようにし、事業所外の医療・介護関係者との交流や、知識・技術の向上に努めています。 研修受講後は、事業所内の勉強会にて他の職員にフィードバックし、全体の学びとするように努めています。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	猪名川町主催の研修等には積極的に参加し、他の出席者との交流や情報交換ができるように努めています。 直接の行き来は難しいですが、電話等での情報交換は継続して行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御入居の前に面談を行ったり、御家族様や介護支援専門員、関係者等より情報収集を行い、御本人の想いや困り事等に寄り添えるように支援しています。 入居後も、不安な事や意向、希望について確認し、支援するように心掛けています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様、特に御入居間もない時期は、御本人の御様子等についても頻回にさせて頂き、御家族様の不安や気になる事等を都度確認するように努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御入居に際し、グループホームでの生活の概要を丁寧に御説明させて頂き、御本人、御家族様の想いも聞かさせて頂いた上で、必要と思われるサービスについて、提案し、選択して頂くように努めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の継続、また潜在能力の維持・向上という事を念頭に置き、御本人にできる事、御本人の得意な事、強みを生活の中で発揮して頂けるように支援しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に、御本人の様子、心身の状況について情報を共有し、ともに支えあう関係づくりに努めています。 今年度は外出や外泊をして頂けず、リモートでの面会によるコミュニケーションの確保を推奨させて頂きました。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より面会を制限させて頂いており、御家族様以外との交流はほとんどありませんでした。 リモートでの面会を導入した事で、入居者様とフランスのお孫さんとの面会が実現した事は素敵な事だと喜んでます。	コロナ禍でリモート面会を取り入れている。レクリエーションの時間に、利用者それぞれの家族にあてて年賀状を作成し送った。訪問理美容は一時停止していたが、再開し利用者ほとんど全員がカットしてもらいすっきりした顔を通信に掲載した。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性に配慮し、ホール内での座席の変更等を適宜行うようにしています。 また職員が仲立ちになる事で、入居者様同士が交流しやすいように支援しています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで、御退居されサービスが終了した後には御本人・御家族様と接する機会がありませんでしたが、御本人・御家族様からの希望があった際には経過のフォローや相談相手にはなれる存在でありたいと思います。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人、御家族様の協同でライフストーリーカルテを作成して頂き、その生活歴をもとに御本人への支援をさせて頂いています。 日々の過ごし方や想い等をケア担当者と計画作成担当者で共有し、御本人への支援に反映させています。	利用者と家族の共同で作るライフストーリーカルテは、思い出話に花が咲き、利用者の想いを家族も再認識できる良い機会となっている。利用者の想いをヒントに職員が情報共有し、促すことにより家事ができた利用者があり、家族にも喜ばれた。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記と同様。御入居の際に御本人や御家族様、関係者からの聞き取りに加え、ライフストーリーカルテを用いて生活歴の把握に努めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の療養記録や申し送り等を通して、入居者様の状況を職員間で情報共有しています。 ケア担当者と計画作成担当者間でも情報の共有を行い、現状の把握に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記のように、入居者様の想いや過ごし方、心身の状況等を職員間で情報共有するとともに、ケア担当者によるモニタリングとサービス担当者会議等を通して、御本人や御家族様の想いを再確認しながら、計画書の見直しを行っています。	職員は担当利用者のモニタリングを3か月毎に行っており、ケアプランの見直しも同じく3か月となっている。利用者個別のケアプランの内容に沿った日々の療養記録について、管理者は職員に指導している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は療養記録に残す事で職員間で情報共有できるように、またケアの根拠となるように努めています。 また特記事項等何か変化があった際には、申し送り用紙、連絡ノート等を活用しています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人、御家族様から突発的、例外的な要望等が生じた際には、臨機応変な対応が求められますが、法令遵守、また自事業所内で対応可能な案件かという事を適切に精査して対応できるように心掛けています。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政担当者や町内事業所の職員様等との交流の中で、情報交換を行い、地域資源を把握できるように努めています。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今井病院への定期受診を月1回実施し、心身の状況について相談・助言を頂いています。外部も含め、主治医との関係性も良く、支援で不安に感じた事は都度相談させて頂き、御本人への支援に繋げています。	連携医療機関受診の際は職員が同行し、新型コロナ対策のため、この1年は特変のない利用者はカルテ受診の形をとっている。他医療機関受診は家族が付き添っている。訪問看護ステーションと連携し、24時間対応できる体制が取れている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年5月より看護師が配置となり、医療体制が充実した。夜間・休日は今まで通り訪問看護ステーションの看護師に相談や必要時の訪問も依頼できており、主治医との連携もより適切に行えるようになりました。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入退院の際には、こまめに連絡を取り合い、情報の共有に努めています。サマリーも当日中に持参し、病棟の看護師とも直接話をさせて頂く事で、御本人の様子について細かい部分までお伝えする事で、支援が切れ目なく行えるように努めています。	入院先の病院へは日々の生活情報を入院当日に伝え、入院期間の目途がつき次第、その後の対応を家族と調整している。退院前は、病院から書面や電話により情報を得て、事業所での生活にスムーズに戻るよう調整している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御入居の際に指針について説明しています。 重度化した際には、主治医も交えて御本人、御家族様と面談し、意向を充分に確認しながら、支援を行うように心掛けています。	契約時に、重度化や終末期に関する事業所の指針について利用者・家族の同意を得ている。緊急時対応については、口頭で説明した後、記録に残しているが、都度確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で定期的に勉強会を実施しています。 今年度は特に発熱時等の初期対応についても意識して取り組み、具体的なシミュレーションや手技についても再確認しました。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練を実施しています。 緊急時の連絡網を整備し、事務所内の電話付近に設置、持ち出し袋にも入れておく事で、有事に備えています。	通常は年2回消防署立ち合いで訓練を行っている。昨年はコロナ禍のため、事業所のみで夜間火災想定で職員2名参加して避難訓練を行ったが、振り返りを行っていない。フロア入口にハザードマップを掲示し、利用者および職員への意識付けを行っている。	避難訓練後に振り返りを行い、実効力のあるマニュアルに更新してはいたがでしよう。
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室、浴室も個室であり、プライバシーの確保に努めています。 言葉掛けや対応等、接遇についても、ユニット会議の中で話し合う機会を設けたり、勉強会等で振り返る機会を作っています。	利用者の呼称について、快く感じるように家族に確認している。職員が各利用者に同じ対応ができるよう話し合いの機会があり、記録に残し職員に共有している。職員の不適切な言葉遣いに対しては、管理者がその場で注意喚起している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の可能な入居者様については、自己決定をして頂くように支援しています。感情や想いの表出が困難な方は、表出がしやすいように選択肢を用意したり、感情を汲み取って支援できるように努めています。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模事業所のメリットでもあるので、臨機応変さは大切に考えています。もちろん、生活のリズムも大切ではありますが、その日の体調や精神状態等によって、その方の希望に沿えるように支援しています。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、訪問理美容を実施して頂いています。定期的にごちらからも御本人、御家族様に提案させて頂き、身だしなみを整えて頂いています。 日々、着用される衣類も、御本人と一緒に選んで頂くように支援しています。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様それぞれの能力に応じて、調理や盛り付け等を一緒させて頂くように支援しています。 行事の際には、外部からお弁当を取る等もして、楽しんで頂けるように努めています。	ユニットごとに調理しているので、利用者は調理や盛り付けを行い、職員が支援している。イベントの際は、利用者は事前にお弁当カタログを見て選び、週2回のおやつレクでは、飲み物と菓子を選んで注文する形式のカフェスタイルをとり、利用者の楽しみに繋げている。	家族が利用者の食生活に不安を感じないよう、事後であってもメニューを家族にお知らせしてはいかがでしょう。
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士監修の栄養バランスの取れた食事の提供を行っています。 食事量、水分量や体重をチェックし、必要時は主治医に相談し、健康が維持できるように支援しています。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者様に声掛けを行い、口腔ケアを実施して頂いています。 歯科衛生士や歯科医師にも指導を受けながら、個別に必要な支援を実施しています。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄状況を集計表に記録し、排泄パターンの把握に努めています。 その上で、お一人おひとりに必要な支援を実施し、少しでも自立に近付けられるよう支援しています。	看護師が日中常駐しているため排便コントロールに細かい調整ができるので、排便困難な利用者が減ってきた。排泄パターンをもとに声掛けを行い、失敗することはほとんどない。昼夜とも自立している利用者もいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについて、毎日の排泄状況の把握を行い、排便量・性状等の観察から、水分量、内服薬の調整等看護師や主治医とも連携しながら、支援に繋げるようにしています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴日に入浴の支援を行っています。入浴の順序等は、入居者様のその日の心身の状況に配慮し支援しています。 体調や精神状態により入浴できない時には臨機応変に別の日に入浴して頂くようにしています。	これまで週2回固定曜日だったが、4月から毎日入浴の機会があり、利用者は好きな日に入浴できるようになる。入浴しない日は清拭し、衛生状況を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様お一人おひとりの生活リズムに配慮しながら、日中は活動的に過ごして頂き、夜間よく休めるように支援しています。 日中も状況や体調に応じて、適宜短時間の臥床を取り入れる等の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は薬剤師により一包装されており、服薬時には職員のダブルチェックにより誤薬がないように努めています。 内服薬は薬剤情報提供書等により職員全員が把握し、変更時にも内容が共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握した上で、それぞれの趣味や嗜好、やりがい等に働きかけるように支援しています。 手持無沙汰にならないように、1日2回のレクリエーションを提供するように心掛けています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に毎日の生活リハビリは施設外へ出るようなプログラムになっており、段差や凹凸を活かしたりリハビリを行うとともに、気分転換も図れるように支援しています。 近所へ散歩に行きたいとの要望には、職員に余裕がある時しか対応できず、柔軟に対応できるように工夫していきたい。	コロナ禍のため、現在は敷地内での散歩に限られるが、できるだけ外気に触れる機会を持てるよう支援している。中庭の菜園の手入れを自発的に担当している利用者には励みとなっている。玄関前に木製のテーブルとイス、パラソルが設置されているので、利用者はゆったりくつろぐことができる。	玄関前のテラスの活用をさらに充実させてはかがいでしょう。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や貴重品については、持ち込みやお預かりをお断りさせて頂いています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望があれば、一度御家族様に相談させて頂いた上で、希望に応えられるようにしています。 お正月には、入居者様がそれぞれの御家族様に向けて書かれた年賀状を送らせて頂きました。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、食事用の机や椅子以外に畳のスペースがあり、入居者様にゆっくりと過ごして頂けるように配慮しています。 季節ごとの壁画を入居者様とともに作成し、季節感が感じられるように飾っています。	利用者は職員と一緒に翌月分の壁面飾りを作製して掲示し、華やかで温かみのある共有空間となっている。玄関前には季節の花が咲き、リビングや居室の窓からは菜園となっている中庭が見えるので、利用者は季節の移ろいを楽しむことができる。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記の通り、共用スペースに机、椅子、畳のスペースがあり、過ごしたいように過ごせるようになっています。一人になれる空間として、居室以外に共用部分に目隠し用の衝立等を導入するように検討しています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にベッドと備え付けのタンス以外は入居者様の持ち込みの家具を使用されており、御本人が使い慣れた物、馴染みの物を周りに置く事で、安心感を与えられるような空間作りに努めています。	事業所から、ベッドおよびマット、クローゼット、エアコン、電灯、カーテンが提供され、利用者は好みの寝具やタンス、ソファや机を持ち込んでいる。家族の写真や飾りなど楽しい居室となっている。居室の清掃は職員が利用者と一緒に出来るよう支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」「分かる事」を活かして、居室入り口の名札(表札)、トイレの表示で、御自身で 사용되는事を支援しています。手摺り等の設備も片麻痺の方でも使いやすいような配置になっており、潜在能力が発揮しやすいようになっています。		

(様式2)

事業所名： グループホームせいふう北田原

## 目標達成計画

作成日： 令和 3 年 6 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	2、3	○地域との付き合い、地域貢献 コロナ禍であり、昨年度以上に地域との交流は減少した。地域住民との交流も、ボランティアや民生委員との交流もほとんどなく、日常生活がグループホーム内でのみ完結してしまっている状態であった。	新型コロナウイルスの感染状況に注意し、感染対策には十分な配慮を行いながら、地域住民との交流やボランティア等の受け入れ等々、地域との繋がりを感じられる支援を考えて実施していきたい。	入居者様、施設職員のコロナワクチンの接種。 自治会長や民生委員と連絡を取り合いながら、地域でのイベントの実施状況等を把握し、参加の可能性を模索していく。 密を避ける等の感染対策に配慮しつつ、住み慣れた猪名川町の町内に出掛けられるように計画する。	12ヶ月
2	4	○運営推進会議を活かした取り組み 昨年度の評価以降、コロナ禍となり、計画していた入居者様の参加が実施できなかった。	入居者様が、自分たちの生活しているグループホームでの運営推進会議に参加して頂けるように支援の方向性を考えたい。	書面開催の形式でも、事前に話を伺ったり、書面を確認して頂いて意見を伺う等のやり取りを実施したり、書面を作成、郵送する際のお手伝いを頂く等の形で、入居者様の役割の一つとして定着させる。 他のグループホームではどのように会議の開催方法を工夫されているか情報収集を行い、自事業所での取り組みに活かす。	12ヶ月
3	40	○食事を楽しむ事のできる支援 前回の評価以降、毎日の献立を掲示する事で、楽しみに繋げたり、調理等の際にも意識して頂けるように支援している。 御家族様へ献立をお知らせする事は他の郵送物との兼ね合いで、事後になってしまう為できていない。	食事に楽しみを持って頂けるような支援を行いたい。 また、御家族様に対しても食事の内容をお伝えする事で、グループホームでの生活を少しでも理解してもらい、不安が解消できるようにしたい。	毎日の献立をユニット内に掲示する事は継続していく。 御家族様に対しては、事後になったとしても献立表を送付し、グループホームでの食事内容をお伝えできるようにする。	1ヶ月
4	49	○日常的な外出支援 現在コロナ禍の為、入居者様皆さんでの外出は実施できていない。リハビリでの敷地内(屋外)への散歩は実施しているが、近所への散歩等は職員の余裕のある時にしか実施できていない。	外気に触れる機会が持てるように支援したい。 敷地外への散歩は職員の余裕のある時にしか実施できていない為、できる限り入居者様の希望に沿った支援ができるようにしたい。	中庭の菜園、玄関前ロータリーの花木の手入れ等を一緒に行う事で、日常の中での屋外での支援を増やすようにする。 施設前のテラスを活用し、楽しんでもらえるように支援する。 できる限り希望に沿った対応ができるように、臨機応変な業務の組み立てができるようにする。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )